

平成 26 年度

# 「学生による授業評価」の概要

平成 27年 7月

県立広島大学総合教育センター

## はじめに

「学生による授業評価」の結果と総括的なコメントを集成した報告書を作成するようになって10年が経とうとしています。

当初は「授業評価」そのものに抵抗を感じる教員も少なからずいたと記憶しています。この間、「学生による授業評価」を行う意義や目的、実施方法などについて検討が重ねられ、並行して授業改善の具体的な取組事例の紹介や啓発がFD活動などを通じて行われてきました。報告書からは、よりよい授業を目指して授業改善に取り組んできた先生方の試行錯誤のあとを辿ることができます。

名称を「授業改善のためのアンケート」とし、質問項目が10項目に絞り込まれ、現在のスタイルになったのは平成24年度のことでした。項目数は、授業評価開始当初の半分です。評価項目は多ければいいというものではありません。評価馴れしている学生たちから本音を引き出し、学修の定着を図りながら授業改善に結びつけるためにはどうすればいいか。課題の一つはこの問題の解決にあったと思われます。現在のシートでは、自由記述欄の行数を増やし、「授業に関する具体的な気づき」「改善点」「印象に残った点」などを「独自の視点」で記述することを求めています。評価する側も評価される側も、アンケートを行う目的をその都度確認することができます。

また、現在は、折り返し時点で中間アンケートを実施して学生の声に耳を傾け、当該学期中に可能な授業改善に取り組む方式を採っています。中間アンケートの評価を受けて、グループでの議論・作業の時間を設ける、事前課題やレポートを課すといった改善事例が増えています。コメント作成時には、中間アンケートの結果を踏まえた具体的な授業改善の取組について記載することが求められますので、期末の授業評価結果から改善を図った成果を自ら確認することも可能です。

本学は平成26年度、大学教育再生加速プログラムに採択されました。その申請に際してはこの報告書から多くの情報を得ました。同時に、次に取り組むべき課題もみえてきました。現在、授業に対する満足度は90パーセントを超えています。その一方で授業外学修の時間は伸びなやんでいます。これについては、なかなかいい解決策が見つかりません。学生一人一人の内側に育っている能動的に学ぶ意欲と力を引き出すためにはなにをすればいいのか、次の一步を踏み出すための手がかりが、この報告書から得られるかもしれません。

いま、個々の授業改善の取組だけでなく、組織として教育改革に取り組むことが求められています。「授業改善のためのアンケート」とこの報告書が単なる報告にとどまることなく、本学の教育の質の向上を図るためにさらに活用されることを願ってやみません。

# I 調査の目的と方法

## 1. 調査の目的と意義

「学生による授業改善のためのアンケート」調査の目的は、授業を受けた学生に、その授業についての率直な意見を求めることを通して、授業担当教員並びに大学が授業の実施状況を点検・評価し、その改善に資するための基礎資料を得るために実施するものである。特に、学生の自主的能動的学修の実態と授業科目の内容や方法との整合性有効性の検証に主眼を置く項目に絞り込み、調査項目の見直しを図ってきている。

調査の具体的目的は、以下に掲げるとおりである。

- ① 教員が自らの授業改善のための資料を得る。
- ② 学生の学修姿勢を知るための資料とする。
- ③ 学生の授業への期待のありかを知るための資料を得る。
- ④ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑤ 学部・学科の授業時間割、及びカリキュラムの有効性を検討するための資料を得る。
- ⑥ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

この目的を果たすためには、学生と教員双方の真摯な取り組みが基本となる。まず、学生がアンケート調査の目的をきちんと理解し、積極的かつ真摯に質問に答えてくれて初めて情報源として有効になる。従って、個別科目の授業改善のみならず、大学全体の教育改革に学生の要望や意見が反映されること、さらに、大学や教員は学生からの「声」を重く受け止めているということ、折に触れて学生に発信していかなければならない。本報告書がその一助となることを願ってやまない。同時に調査内容及び実施方法は今後も改善を続け、検証を踏まえたうえでより良いものにしていく必要があると考えている。

そして、各教員レベルにおける授業改善、具体的には教材の選定から始まり、授業の内容が分かり易く説明されたか否かといった点や、難易度や進み具合、補助教材の効果等、さらに学生の発表や課題に対する対応・実習における支援、全体を通した満足度までを数値化して、検証に繋げなければならない。まさしく、教育の根本である学生第一の姿勢を効果的に実現できたか、個々の取り組みを学部や学科等の組織にまで拡げて捉え、総体的な連携や継続的な改善に繋がっているかを見直し、教育の質向上を図ることである。

「授業改善のためのアンケート」に基づく組織的改善のための IR<sup>1</sup>を担当している部署においては、現状と課題を検証するために、教員個々の集計結果や学生の自由記述にも目を

---

<sup>1</sup> IR(Institutional Research)とは、大学運営や教育改革の効果を検証するための評価指標として、さまざまな情報を収集・管理し、教育・研究、学生支援、経営に活用することを意味している。

通さざるを得ない。守秘義務については言うまでもないことであるが、個々のデータはあくまで組織的改善のための指標の1つとして取り扱っている点を強調しておく。

## 2. 調査の実施概要

### (1) 実施期間

前期：平成26年7月14日～8月1日

後期：平成27年1月19日～2月6日

早期終了科目、集中講義科目については、担当教員が最終日に近い日程を設定した。

### (2) 対象科目

県立広島大学における平成26年度前期及び後期開講の全授業科目とした。ただし、「学外実習科目」、「卒業論文」については除外した。また、受講者数が5名未満の授業科目については、担当教員の判断で対象科目から除外することができることとした。

### (3) 調査項目

平成26年度は昨年度と同様に質問項目は、(A) 学生自身についての2項目、(B) 授業と教員について5項目、担当教員による追加項目3項目、(C) 自由記述とし、3区分で構成した。回答は4段階評価方式（例えば、強く思う=4、そう思う=3、そう思わない=2、全くそう思わない=1）とし、無記名とした。調査用紙は7頁参照。

このうち、平成25年度からの文言の修正変更は、「学習」の表記を「学修」へ統一する点と、(A) 学生自身についての2項目のうち、2「わたしはこの授業に関連する自主的な学習を行った。」を「わたしはこの授業に関連する授業外学修を行った。」と言う表現にした点である。

### (4) 学生への依頼

調査方法等を全学生に通知し、学生の協力を得るため、本学HPに実施概要を掲載して Semesterごとに別途ポスター（8～9頁参照）を掲示した。新入生に対しては本調査が初回となるため、各キャンパス学年はじめのオリエンテーションで協力依頼文を配付した（10頁参照）。

### (5) 配付及び回収方法

調査の実施に当たっては授業担当教員が調査用紙を配付し、その回収と授業への提出は若干名の学生を指名し依頼した。配付後は学生が教員の目を気にせず回答できる雰囲気醸成するため、教員は速やかに退出することとした。

(6) 実施状況

平成 26 年度県立広島大学の在 student 数は、2,636 名であった。調査の実施状況は、表 1-1、1-2 の通りであった。履修登録者数は、指定期間に登録完了の数値である。その後変更手続きをした者、学期の途中で授業を放棄した者等は減じていない。

表1-1 平成26年度「学生による授業評価」(前期)調査 実施状況

科目群	科目数	履修者数
全学共通教育科目	214	7,792
専門科目	384	16,629
教職科目	14	250
全学	612	24,671

■対象科目数(述べ)	612
■実施率	94.1%
■未実施科目数	36

表1-2 平成26年度「学生による授業評価」(後期)調査 実施状況

科目群	科目数	履修者数
全学共通教育科目	148	5,458
専門科目	428	16,595
教職科目	19	365
全学	595	22,418

■対象科目数(述べ)	595
■実施率	91.4%
■未実施科目数	51

なお、実施上の諸作業のうち調査用紙の印刷、授業科目担当教員別調査用紙の袋詰め、各キャンパスへの納品、単純集計作業(学部・学科単位の集計を含む。)は外部委託した。また、授業科目のデータベース作成、並びに調査の実施手続き、回収作業等の一部については、各キャンパス教学課の協力を得た。

#### (7) 「授業改善のための中間アンケート」

##### ① 実施促進週間

前期：平成 26 年 5 月 26 日～ 5 月 30 日

後期：平成 26 年 11 月 7 日～11 月 13 日

「授業改善のための中間アンケート」（11 頁参照）は授業の中間時点で実施し、後半の授業改善の手がかりとすることを目的としている。セメスターごとに促進週間を設け、HP に掲載するなどして、学生及び教員に周知した（12～13 頁参照）。

##### ② 実施方法等

- 調査用紙は総合教育センターがメール送信する電子ファイルを印刷し、なるべく「中間調査実施促進期間」中に実施する。
- 中間調査の集約は原則として担当教員が行うこととする。具体的改善に結びつく特定項目や自由記述に限定したものでもかまわない。
- オムニバス等、授業形態により中間調査の実施が困難な科目については、中間調査用紙で各自が実施し、期末調査結果と比較することで改善のヒントが得られる場合もあるので柔軟に対応する。
- 「追加質問」については、担当教員が独自に項目を設定することができる。
- 配付と回収は担当教員が行い、結果は当該教員だけが見ることとする。また、このことを、授業担当教員（中間アンケートを実施する教員）はあらかじめ受講者に通知しておく。

##### ③ 受講生へのフィードバック

担当教員は、実施後の早い時期に可能な範囲で、結果の説明と主な意見に対するフィードバックを行う。また、報告書のコメントには、中間調査（もしくはそれと同等の手がかり）を踏まえた改善のポイント、結果（変化）と今後の課題などを反映させる。

### 3. 調査結果の集計とフィードバック

#### (1) 提供データ（集計表等）

担当教員には、調査を実施した各授業科目に対して、次の 2 種類のデータをフィードバックした。集計表には、当該科目のグループ集計単位、すなわち全学共通教育科目、教職科目、専門教育科目の別を明記した。

- ① 科目名、担当者名、開講キャンパス名、科目グループ（学部、学科等）、履修登録者数、回答者数、回答率等が記載された集計結果内容は次の通り。
  - ・設問別評価集計、・設問グループ別（学生の自己評価、授業評価）平均、・評価中央値レーダーチャート、・設問別評価構成グラフ、・中央値グラフ、・設問別平均の範囲と中央値

## ② 学生による自由記述一覧

設問4「この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板，視聴覚・情報機器など）は適切だ。」と設問6「この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。」については「判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。」と記し、  
(C) 自由記述では「授業に関する具体的な気づきや，改善すべき点，この授業で印象に残った点などについて，あなた独自の視点で，担当教員へのメッセージを記入してください。ただし，教員個人に対する誹謗中傷など，この調査の目的から逸脱した記述はしないでください。」とした。

学部代表の高等教育推進部門会議委員には，学部もしくは学科別に集計した専門科目の集計結果を，全学共通教育部門長には全学共通教育科目及び教職に関する科目の集計結果を送付した。

## (2) 総括担当科目コメント及び総括コメントの作成

高等教育推進部門会議において，人間文化学部国際文化学科，同健康科学科，経営情報学部，生命環境学部，保健福祉学部における専門科目，全学共通教育科目，教職に関する科目の集計単位ごとに作成することとした。科目別教員コメントは，昨年度の観点を踏襲し，次の3項目とした。

- 1) 昨年度の結果を踏まえた授業改善点
- 2) 履修者の反応を知るために学期中に実施した方法・その結果を踏まえた授業改善点
- 3) 期末アンケート結果から見た今後の課題

なお，当該授業科目担当者および学部・学科等の総括コメントは各学部の高等教育推進部門会議委員，全学共通教育科目については全学共通教育部門長が，教職に関する科目については教職委員会委員長がとりまとめと総括コメントを担当した。全学集計に関する概要は総合教育センターが担当した。非常勤講師に対しては担当科目の集計表等を送付するにとどめ，コメントの作成は求めている。





## <在学生の皆様へ>

平成26年度「学生による授業評価」  
「授業改善のためのアンケート」の実施について  
～より良い授業のために、あなたの意見を～

本学では、授業改善を目的に「授業改善アンケート」調査を実施しています。

調査用紙は電算(OCR)処理し、教員は見ませんので、回答した学生が特定されることはありません。

成績評価にも影響しませんので、率直に教えてください。調査結果の概要は、学生の皆さんにも公開する予定です。

ご協力をお願いします。

[実施時期]

原則として各授業科目の授業最終日

(※中間アンケートを実施する科目があります。)

### 《お願い》

- ① 記入に適した筆記用具(HBの鉛筆等)を持参してください。
- ② 担当教員に、自由な回答を妨げるような言動があった場合は、総合教育センターまたは学部長に報告してください。
- ③ 調査用紙の回収と提出は学生の皆さんにお願いします。  
提出先は教学課窓口です。
- ④ 無記名回答ですが、教員に対する誹謗中傷など、この調査の目的から逸脱した記述は固くお断りします。

総合教育センター長

問い合わせ先：総合教育センター

TEL：082-251-9536 E-Mail：s-service@pu-hiroshima.ac.jp

## 県立広島大学 <在学生の皆様へ>

平成26年度 「学生による授業評価」

「授業改善のためのアンケート」の実施について

～より良い授業のために、あなたの意見を～

本学では、授業改善を目的に「授業改善アンケート」調査を実施しています。

調査用紙は電算(OCR)処理し、教員は見ませんので、回答した学生が特定されることはありません。

成績評価にも影響しませんので、率直に教えてください。調査結果の概要は、学生の皆さんにも公開する予定です。

ご協力をお願いします。

[実施時期]

原則として各授業科目の授業最終日

(※中間アンケートを実施する科目があります。)

《お願い》

- ① 記入に適した筆記用具（HBの鉛筆等）を持参してください。
- ② 担当教員に、自由な回答を妨げるような言動があった場合は、総合教育センターまたは学部長に報告してください。
- ③ 調査用紙の回収と提出は学生の皆さんにお願いします。  
提出先は教学課窓口です。
- ④ 無記名回答ですが、教員に対する誹謗中傷など、この調査の目的から逸脱した記述は固くお断りします。

総合教育センター長

問い合わせ先：総合教育センター

TEL：082-251-9536

E-Mail：s-service@pu-hiroshima.ac.jp

## 県立広島大学新生の皆様へ

平成 26 年度「学生による授業評価」

### 「授業改善のためのアンケート」の実施について

—より良い授業のために、あなたの意見を—

本学では、授業改善のため、「学生による授業評価（アンケート調査）」を実施しています。

調査用紙は電算（OCR）処理し、教員は見ませんので、回答学生が特定されることはありません。成績評価にも影響しませんので、率直に答えてください。調査結果の概要は、学生の皆さんにも公開する予定です。ご協力をお願いします。

**実施時期：原則として、各授業科目の授業最終日**

#### 《お願い》

- ①記入に適した筆記用具（HB の鉛筆等）を持参してください。
- ②担当教員に、自由な回答を妨げるような言動があった場合は、総合教育センターまたは学部長に報告してください。
- ③調査用紙の回収と提出は学生の皆さんにお願いします。提出先は教学課窓口です。
- ④無記名回答ですが、教員に対する誹謗中傷など、この調査の目的から逸脱した記述は固くお断りします。

この調査に関するご意見やご質問は、総合教育センターまでお願いします。

県立広島大学 総合教育センター長

問い合わせ先

総合教育センター 広島キャンパス （1143）

E-mail : [s-service@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:s-service@pu-hiroshima.ac.jp) TEL : 082-251-9536（内線 9536）

## 「授業改善のための中間アンケート」調査用紙

このアンケートは、**個々の授業改善および大学の組織的な教育力の向上**を図る目的で実施するものです。回答内容があなたの成績評価に影響することは全くありませんので、率直に、真剣に答えてください。

授業科目名		担当教員名		曜日		時限	
-------	--	-------	--	----	--	----	--

## 【記入上の注意】

- (1) 質問 1～10 の回答は 4 段階評価で、該当する欄に HB または B の鉛筆等でマークしてください。**ただし、「この授業に当てはまらない質問だ」と思う場合は、無回答（マークしない）で結構です。**
- (2) 質問 11 は枠内に収まる範囲で自由に記述してください。

	強く そう 思う	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	全 思 く わ そ な う い
アンケートの項目を 4 段階で評価してマークしてください。				
A あなた自身についての質問				
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んでいる。	[4]	[3]	[2]	[1]
2 わたしはこの授業に関連する授業外学修を行っている。	[4]	[3]	[2]	[1]
B 授業と教員についての質問				
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	[4]	[3]	[2]	[1]
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板、視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	[4]	[3]	[2]	[1]
5 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	[4]	[3]	[2]	[1]
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	[4]	[3]	[2]	[1]
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	[4]	[3]	[2]	[1]
8 （担当教員が個別に設定する項目 1）	[4]	[3]	[2]	[1]
9 （担当教員が個別に設定する項目 2）	[4]	[3]	[2]	[1]
10 （担当教員が個別に設定する項目 3）	[4]	[3]	[2]	[1]
C 自由記述				
11 授業に関する具体的な気づきや、改善すべき点、この授業で印象に残った点などについて、あなた独自の視点で、担当教員へのメッセージを記入してください。ただし、教員個人に対する誹謗中傷など、この調査の目的から逸脱した記述はしないでください。				

ご協力ありがとうございました。 総合教育センター長

**前期 実施促進週間**  
**5月26日(月)～**  
**5月30日(金)**

後半の授業改善の手掛かりを得るために、担当者が主体的に中間アンケートを実施する科目があります。

受講生のみなさんのご協力をお願いいたします。

平成26年度「学生による授業評価」  
「授業改善のための中間アンケート」

問合せ先: 総合教育センター

e-mail: [s-service@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:s-service@pu-hiroshima.ac.jp)

TEL: 082-251-9720 (内線 9720)

**前期 実施促進週間**  
**11月7日(金)～**  
**11月13日(木)**

後半の授業改善の手掛かりを得るために、担当者が主体的に中間アンケートを実施する科目があります。

受講生のみなさんのご協力をお願いいたします。

平成26年度「学生による授業評価」  
「授業改善のための中間アンケート」

問合せ先: 総合教育センター

e-mail: [s-service@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:s-service@pu-hiroshima.ac.jp)

TEL: 082-251-9720 (内線 9720)

## Ⅱ 集計単位別結果と総評

### 全学集計

#### 1. 分析の概要

##### (1) 分析の対象

全学集計の分析に当たっては、全授業科目を、全学共通教育科目、専門科目、教職科目の3群に分けた。また、表2に示した延べ回答数（前期：20,729，後期：18,467）を科目群別の分析対象とした。クロス集計の統計的検定法は、カイ二乗検定を用いた。

表2 回答数の内訳

科目群	回答数	
	前期	後期
全学共通教育科目	7,010	4,674
専門科目	13,516	13,477
教職科目	203	316
全学	20,729	18,467

##### (2) 基本的分析

基本的データとして、項目別の回答数、最小値、最大値、平均値及び標準偏差を科目群ごとに算出し、本節の末尾（27頁～29頁参照、表9-1～表11-2）に示した。

##### (3) 項目間の関連

質問項目別の回答間に関連性があるか否かを検討するため、全学共通教育科目、専門科目、教職科目別に各質問項目でピアソンの相関係数を算出し、無相関の検定を行った。

#### 2. 結果と考察

##### (1) 学生の自己評価

はじめに学生の受講態度の一端を検討してみる。表3-1, 3-2, 図1に科目群別に受講生の授業態度（問.「わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。」）の自己評価結果を示した。学

生の授業態度は良好で、おおむね授業に積極的に参加していることがうかがえる。まじめに授業に取り組んだとみなす自己評価（「強くそう思う」と「そう思う」の合計）は全学（全授業科目）では前期（94.2%）後期（95.8%）とも 90%以上に達している。3 群を比較すると教職科目がやや低いことがわかる（前期 91.2%，後期 90.5%）。教員免許という付加

表3-1 受講生の授業態度（前期） (%)

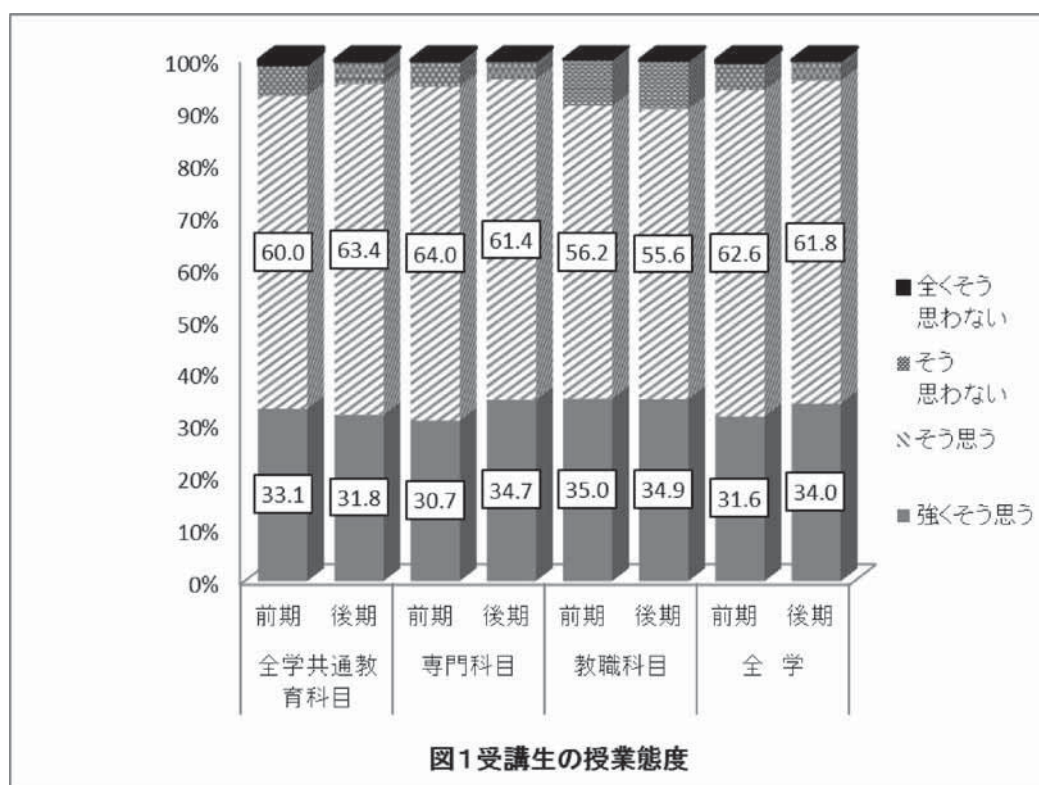
科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育科目	33.1	60.0	5.9	1.1	7,007
専門科目	30.7	64.0	4.8	0.4	13,502
教職科目	35.0	56.2	8.9	0.0	203
全学	31.6	62.6	5.2	0.7	20,712

P<.001

表3-2 受講生の授業態度（後期） (%)

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育科目	31.8	63.4	4.3	0.4	4,672
専門科目	34.7	61.4	3.5	0.3	13,469
教職科目	34.9	55.6	9.2	0.3	315
全学	34.0	61.8	3.8	0.3	18,456

P<.001





価値を希望する学生は毎年少なからずおり、卒業単位とは別の受講負担という側面では学修意欲の指標の一つでもある。しかしながらこの数値が全学共通教育科目や専門教育科目を受講する学生達と著しく異なる授業態度とは思えない。なお、本学で教員免許の取得が可能な学部・学科は、人間文化学部国際文化学科（中学1種の英語・国語・社会教科並びに高校1種の英語・国語・地理歴史・公民教科）、同学部健康科学科（栄養教諭1種）、経営情報学部経営学科（高校1種の商業・公民教科、）同学部経営情報学科（高校1種の情報教科）、生命環境学部（中学1種並びに高校1種の理科教科）である。

次に表4-1, 4-2, 図2に学生の主体的学修姿勢（問.「わたしはこの授業に関連する授業外学修を行った。」）の自己評価結果を示した。全学（全授業科目）で比較してみる。「強くそう思う」と「そう思う」を加えると、前期は73.0%、後期は78.7%の学生が、授業に主体的に取り組んでいると回答している。前期授業の修得を踏まえ、後期にさらに学修意欲を高めているものと理解できる。この傾向は全学共通教育科目（前期：66.6%、後期：75.7%）においても、専門科目（前期：76.3%、後期：79.9%）においても同様の上昇傾向が見て取れるが、教職科目（前期：71.7%、後期：71.8%）については変化は見られなかった。本学学生の学ぶ姿勢は、授業態度、学修意欲の数値に如実に表れているといつてよかろう。もちろん、主体的学修といった姿勢が一気に培われるわけではない。教員の授業改善への不断の努力や教育力の向上を目指す組織的研鑽が成果に結びつくものとする。

表4-1 受講生の主体的学修姿勢（前期）

(%)

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育科目	19.1	47.5	24.8	8.6	6,958
専門科目	21.1	55.2	20.2	3.5	13,465
教職科目	24.9	46.8	22.4	6.0	201
全学	20.5	52.5	21.8	5.3	20,624

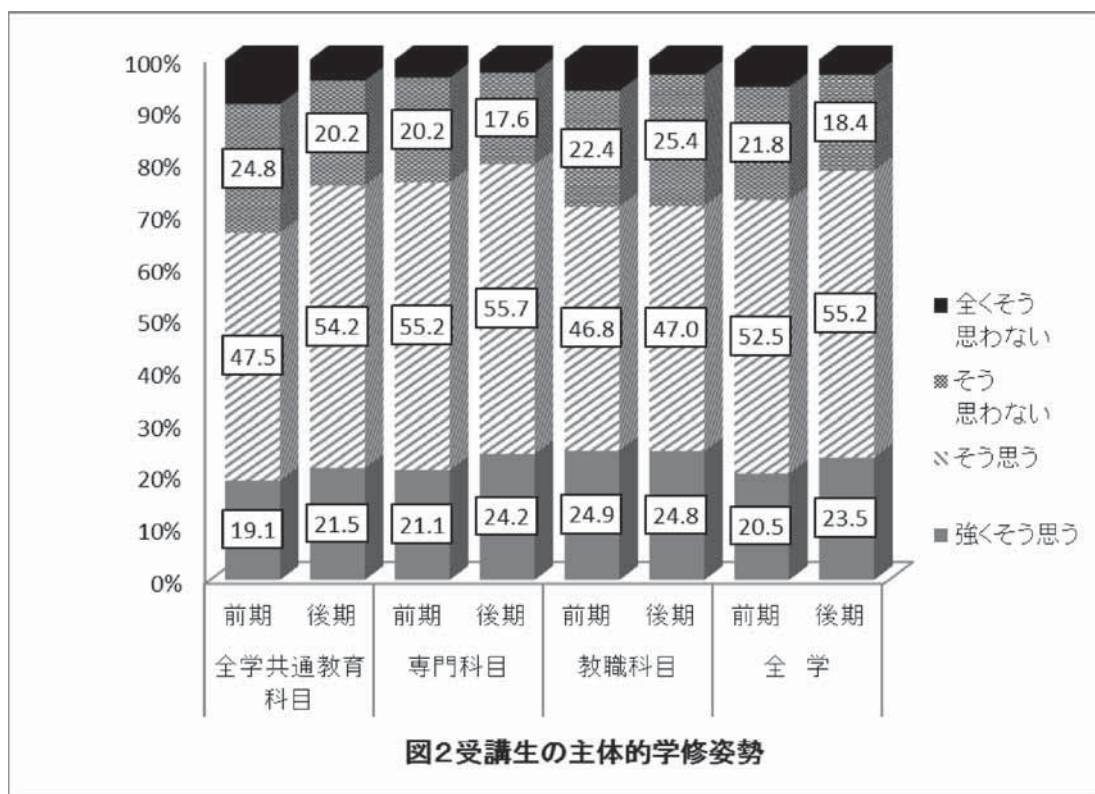
P<.001

表4-2 受講生の主体的学修姿勢（後期）

(%)

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育科目	21.5	54.2	20.2	4.1	4,653
専門科目	24.2	55.7	17.6	2.5	13,455
教職科目	24.8	47.0	25.4	2.9	315
全学	23.5	55.2	18.4	2.9	18,423

P<.001



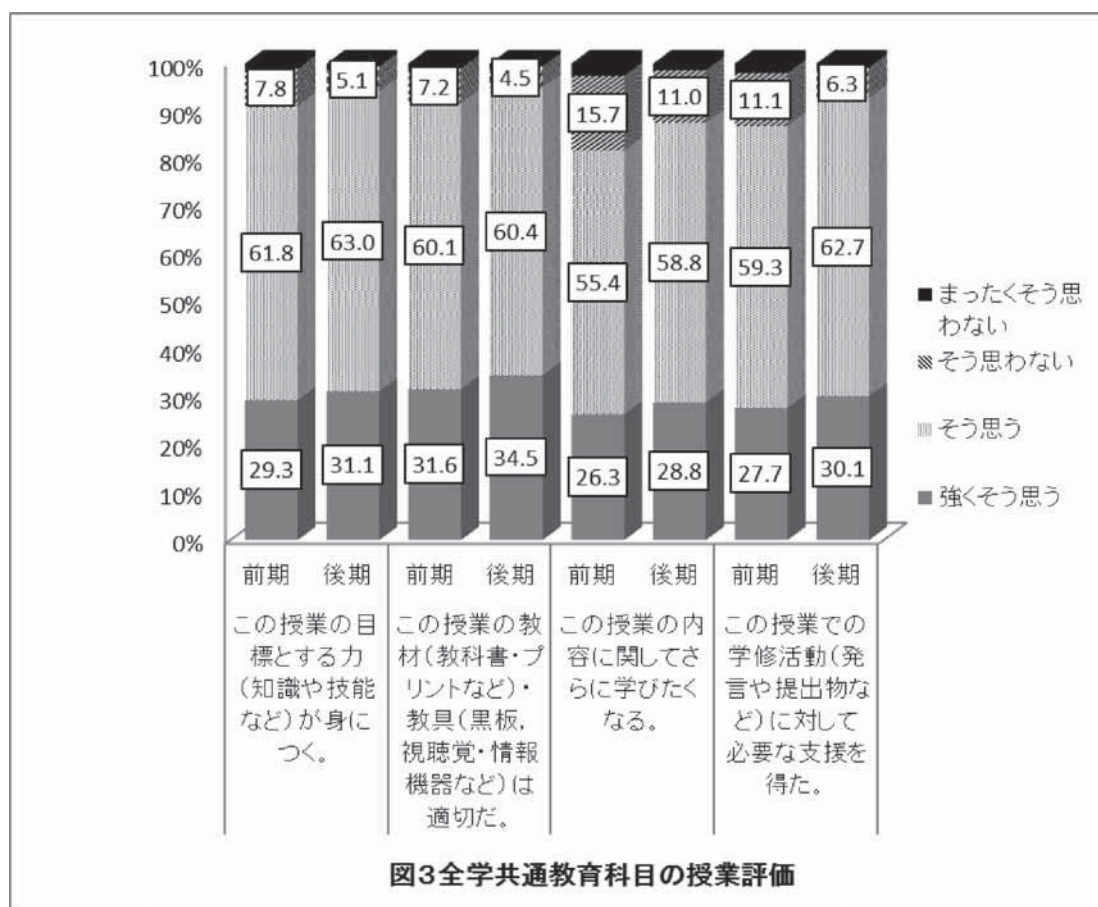
以上、本学の学生の学修態度について概観した結果、僅かな質問項目からとはいえ、まじめに学業に取り組む学生の姿勢をうかがい知ることができた。ただし、主体的学修姿勢の涵養については、今後授業スタイル・方法に関して一層検討する余地がある。

では、担当教員の授業に対する学生の評価はどうであろうか。以下では、全学共通教育科目、専門科目、教職科目について、それぞれの授業評価を概観する。

## (2) 全学共通教育科目の評価

全学共通教育科目は、基幹科目、複合科目、フレッシュマンセミナー、外国語科目、情報科目、保健体育科目に区分され(ただし、人間文化学部国際文化学科では外国語科目を、健康科学科では情報科目と保健体育科目を専門科目として開講している。また、国際文化学科では学科基礎教養として5つの授業科目とフレッシュマンセミナー「基礎ゼミ」IIを別途開設している。)、全学的に開講されている。もともと必要最低単位数は、学部・学科の特性から必ずしも一律ではない。全学共通教育科目の授業評価結果を設問項目ごとに、前・後期別に図3に示した。

「この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。」(「強くそう思う」と「そう思う」の比率の和、以下同様。)は、前期:91.1%、後期:94.1%、「この授業の教材(教科書・プリントなど)・教具(黒板、視聴覚・情報機器など)は適切だ。」は、前期:91.7%、後期:94.9%で前後期とも9割以上の評価を得ている。教員がシラバスに基づき、教材作りに不断の努力を重ね、わかりやすい授業の実践に心がけている点の評価と受け止めることがで



きる。また、「この授業の内容に関してさらに学びたいくなる。」は、前期の 81.7%から後期の 87.6%と 6%近く向上しており、「この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。」は前期の 87.0%から後期の 92.8%と、こちらも前期授業よりも高い評価を得ている。

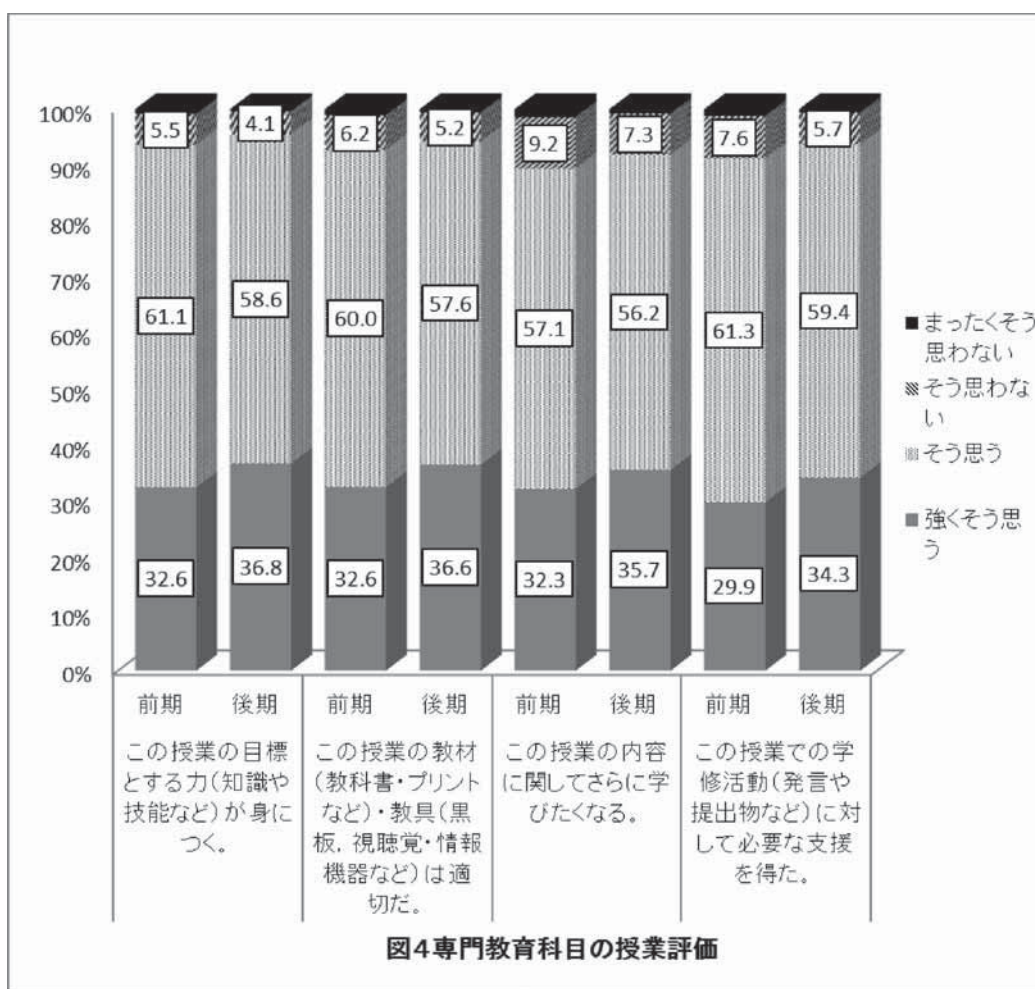
総じて 80%以上の肯定的評価を得ているということは、教員が学生のための配付資料や授業の進捗状況を考慮するのみならず、興味関心が湧くような工夫を凝らしていることがうかがえる。また、レポートなど提出物へのコメント記載やフィードバックする際のきめ細やかな教育支援を学生は素直に受け止めているようであった。専門科目に比べると全学共通教育科目は受講生が多く、運営上遠隔講義システムによる大講義室での授業頻度が高い。こうした教育環境に即した教材の提供・準備等、教員の教育的配慮が評価されたものと考えられる。もっとも、動機づけに関しては、前期：18.3%、後期：12.4%が否定的回答（「そう思わない」と「まったくそう思わない」の比率の和）と答えている。この約 1 割の受講生への動機づけが次の課題となる。

### (3) 専門科目の授業評価

図 4 に、専門科目の授業評価結果を設問項目ごと前・後期別に示した。

まず目標達成に関しては、「強くそう思う」が前期の32.6%から後期は36.8%へ、適切な情報提供に関しては、同じく「強くそう思う」が前期の32.6%から後期は36.6%へ、そして動機づけについては前期の32.3%から後期は35.7%へ、学修支援は前期の29.9%から後期は34.3%へと、いずれの項目も後期の結果が前期を上回っていることがわかる。全学共通教育よりもクラスサイズが小さく、より行き届いた教育方法と内容の結果が反映していることがわかる。例えば高等学校卒業後、初めて大学教育を受ける新生にとってはいこれまでの学校教育の授業形態とは全く異なる未知の世界である。授業時間の長さ、教科書の使用法、レポート課題の書き方、教員の授業方法等の一つひとつが学生には初体験である。教員が詳しい説明と適切な指示を与えることで、高等学校での学修を大学での学びにスムーズに移行できることになる。教員はこうした「手間」を省略するわけにはいかない。最近では高等学校での学修歴の多様化やカリキュラムの選択幅も拡大している。学生の反応を観察しつつ教員本位ではなく学生(学修者)本位の授業設計が求められている。教員の地道な授業改善の蓄積が受講生からの高い評価につながるとみてよかろう。

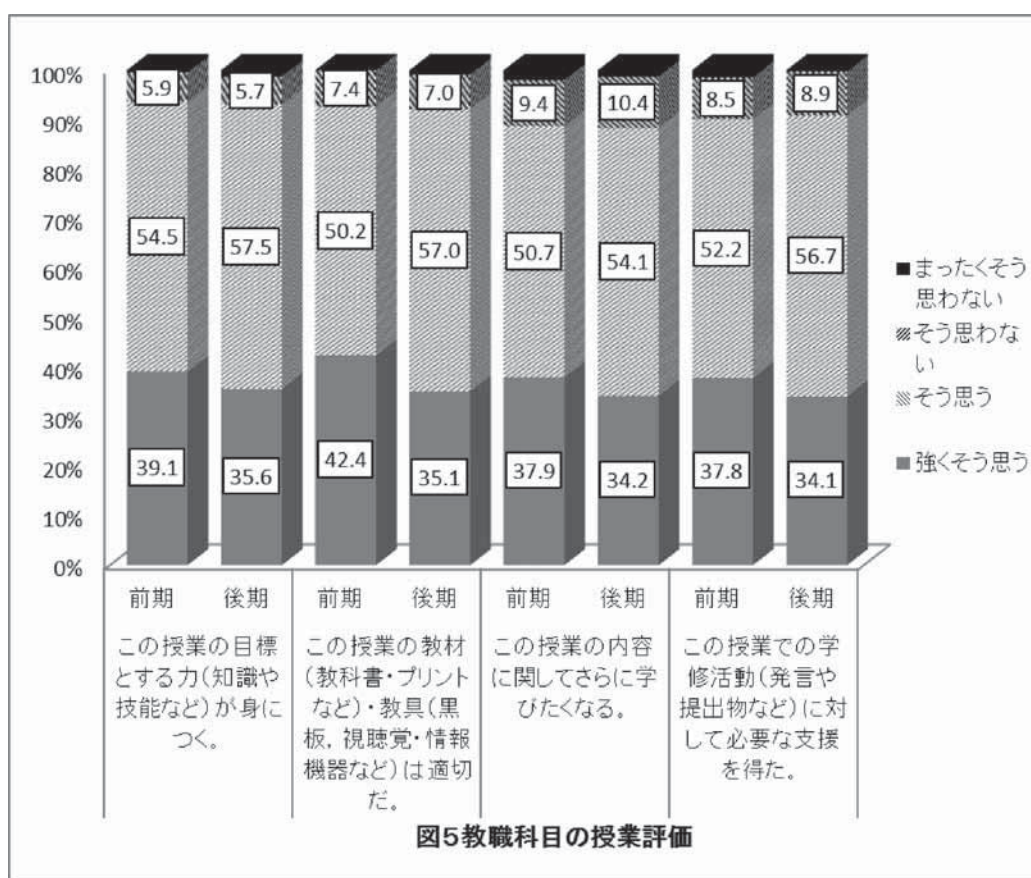
大学の講義というものは、毎授業時間中に明解な答が出てくるといったものは極めて少



なく、とりわけ人文学や社会科学の分野では、15回分の授業の中で徐々に本質的な理解が深まるような組立てがなされている。あるいは問題の所在が明らかになるように設計されている。教員はそのプロセスを、一步一步時間をかけてまとめ上げているはずである。しかし、授業の初期の段階でつまづいた学生にとっては、授業内容の理解や修得が困難になってしまう事態も起きるであろう。かたや専門性の高い授業を強く志向する学生にとっては、易しすぎる内容では興味を損ねてしまうことになりかねない。どのレベルの学生に授業内容を合わせるかは難しい課題である。

#### (4) 教職課程科目の授業評価

図5に、教職課程科目の授業評価結果を設問項目ごと前・後期別に示した。「強くそう思う」の比率がすべての項目、すなわち目標達成は前期の39.1%から後期は35.6%へ、適切な情報提供は前期の42.4%から後期は35.1%へ、動機づけは前期の37.9%から後期は34.2%へ、学修支援は前期の37.8%から後期は34.1%へ、残念ながら前期よりも後期の方が下回っていることがわかる。もちろん、前期と後期という授業科目も担当者も違う母集団を軽々に比較することは危険かもしれない。しかし、たとえ授業科目は異なっているにせよ、1人の教員が前期後期の授業を通して受講生と向き合っているのであるから、前期授



業評価後の改善が後期の授業に影響を及ぼすという点においては、あながち無関係とはいえない。こうした結果が担当教員一人ひとりが前期の反省をふまえ、授業の改善に努力した後の評価なのか、あるいは授業の方法や内容に起因するのか、科目の特性なのかは定かでない。自由記述も参考になるであろう。担当教員のコメントから手がかりが得られるかもしれない。

#### (5) 授業の総合的評価

さて、調査項目のうち、「総合的に判断して、この授業に満足している。」の項目は、授業の総合的評価とみなすことができる。そこで、この項目について、全学共通教育科目、及び専門科目、教職科目の3群の集計結果の比較を試みた。総合的満足度を、前・後期別に表5-1、5-2、図6に示した。

全学で見ると、「強くそう思う」と「そう思う」を加えた肯定的評価の割合は、前年度比（前期：91.9%，後期：94.1%）とほぼ同様の、前期が92.0%，後期が94.5%であった。担当教員が授業評価を参考に、真面目に授業の改善に取り組んでいることがわかる。特に後期の専門科目では39.1%の受講生が「強くそう思う」と答えており、各科目担当教員がいかに学生とコミュニケーションを図り、授業改善を継続しているかが理解できる。

本学がこれまで実施してきた当該調査の総合的満足度の評価を改めて時系列に比較すれば、平成17年度後期は80.3%，平成18年度前期は83.0%，平成19年度前期は85.7%，同じく後期は89.6%，平成20年度前期は87.1%，後期は91.3%，平成21年前期は89.8%，後期91.6%，平成22年前期は90.2%，後期93.1%，平成23年前期は92.1%，後期93.5%，

表5-1 満足度（前期）

(%)

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育科目	34.6	55.7	8.2	1.6	6,609
専門科目	35.9	57.0	5.9	1.2	12,956
教職科目	45.2	45.7	7.0	2.0	199
全学	35.5	56.5	6.7	1.3	19,764

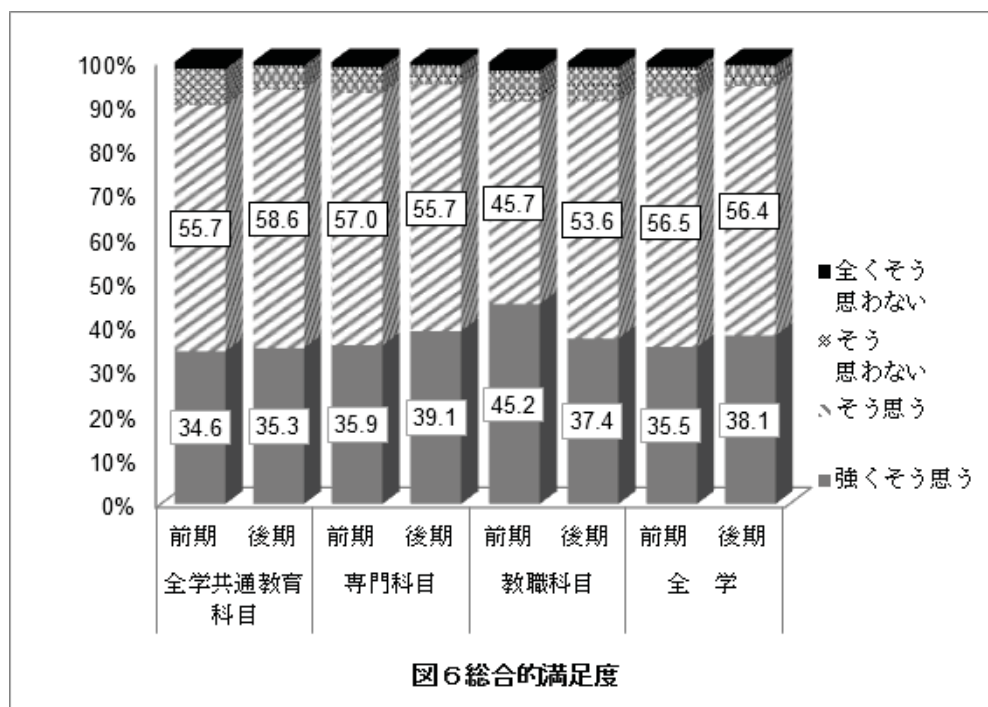
P<.001

表5-2 満足度（後期）

(%)

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育科目	35.3	58.6	5.4	0.8	4,387
専門科目	39.1	55.7	4.5	0.7	12,798
教職科目	37.4	53.6	7.6	1.3	302
全学	38.1	56.4	4.8	0.7	17,487

P<.001



平成 24 年前期は 91.5%，後期 93.8%，平成 25 年前期は 91.9%，後期 94.1%と、高いことがわかる。再掲するが平成 26 年度前期は 92.0%，後期は実に 94.5%であった。この数値をもってすれば、本学の教員は授業評価の結果に基づき、創意工夫や改善をしていると言えよう。とは言うものの、「満足度」は様々な要素が複合的に組み合わさった結果に対する評価である。また、担当教員は諸事情により、やむなく授業の難易度や進捗度を下げている場合があるかもしれない。教育課程上の位置づけの違い等も考慮すると数値の差は、必ずしも授業の質や完成度を反映したものではない。いずれにせよ、「分かりやすく興味深く、しかも知的な刺激を受ける」授業を、90 分の中にいかに構成・展開するかは、学生との真剣勝負であるといっても過言ではない。

#### (6) 項目間の相関<sup>1</sup>

各質問項目が、それぞれの項目間でどの程度の関連性があるのか、その関連の強さを、全学共通教育科目、専門教育科目、教職科目の別に、表 6・1～表 8・2 に示した。表中の数値は、関連性の強弱を示す相関係数である。比較的強い相関を示していると言える係数値 (0.60 以上) に網掛けを施した。とりわけ「総合的満足度」はすべての科目群で「目標達成」、「適切な情報」、「動機づけ」、「学修支援」項目と高い相関のあることが確認された。

<sup>1</sup> a 及び b という項目があった場合、a に 1 (低い評価) を付けた人が、皆 b にも 1 (低い評価) を付ければ、相関は強くなる。二つの項目の数値が同じ傾向の動きをするほど相関は強くなる。全く同じ動きであれば、相関係数は 1.0 となり、真逆の動き (一方に 1 を付けた人はもう一方に 4 を付ける) をすれば、-1.0 となる。全くバラバラであれば、相関係数は 0.0 となる。

また、専門科目と教職科目においては「受講生の授業態度」と「受講生の主体的学修姿勢」すなわち学生の自己評価間の相関も高いことが判明した。

表6-1 全学共通教育科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	N	0.6以上の比較的強い相関(表6-2~10-2も同様)						
		A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-7
A-1	7,007	1.00						
A-2	6,958	.430**	1.00					
B-3	6,994	.566**	.383**	1.00				
B-4	6,979	.484**	.315**	.682**	1.00			
B-5	6,998	.507**	.382**	.657**	.604**	1.00		
B-6	6,891	.483**	.408**	.644**	.652**	.639**	1.00	
C-7	6,609	.547**	.317**	.702**	.678**	.685**	.668**	1.00

注)表中の\*\*は危険率1%において、有意な関連性のあることを示している。以下の表も同様。

<項目対応表>(以下も同様)

A	1 わたしはこの授業に真摯に取り組んでいる。
	2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行っている。
B	3 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。
	4 この授業の教材(教科書・プリントなど)・教具(黒板, 視聴覚・情報機器など)は適切だ。
	5 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。
	6 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して必要な支援を得ている。
C	7 総合的に判断して、この授業に満足している。

注)A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

表6-2 全学共通教育科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	N	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-7
A-1	4,672	1.00						
A-2	4,653	.505**	1.00					
B-3	4,672	.564**	.406**	1.00				
B-4	4,670	.512**	.360**	.723**	1.00			
B-5	4,668	.518**	.434**	.678**	.634**	1.00		
B-6	4,636	.511**	.417**	.697**	.724**	.686**	1.00	
C-7	4,387	.545**	.366**	.736**	.705**	.708**	.733**	1.00



表7-1 専門科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	N	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-7
A-1	13,502	1.00						
A-2	13,465	.513**	1.00					
B-3	13,496	.582**	.409**	1.00				
B-4	13,478	.526**	.358**	.735**	1.00			
B-5	13,493	.540**	.412**	.710**	.680**	1.00		
B-6	13,291	.537**	.411**	.710**	.737**	.702**	1.00	
C-7	12,956	.557**	.364**	.748**	.740**	.749**	.748**	1.00

表7-2 専門科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	N	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-7
A-1	13,469	1.00						
A-2	13,455	.559**	1.00					
B-3	13,456	.586**	.451**	1.00				
B-4	13,442	.540**	.411**	.758**	1.00			
B-5	13,454	.553**	.448**	.724**	.701**	1.00		
B-6	13,369	.559**	.461**	.728**	.750**	.716**	1.00	
C-7	12,798	.590**	.420**	.767**	.763**	.753**	.768**	1.00

表8-1 教職科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	N	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-7
A-1	203	1.00						
A-2	201	.633**	1.00					
B-3	202	.537**	.492**	1.00				
B-4	203	.495**	.422**	.685**	1.00			
B-5	203	.612**	.530**	.675**	.660**	1.00		
B-6	201	.513**	.521**	.659**	.742**	.727**	1.00	
C-7	199	.584**	.456**	.707**	.760**	.764**	.776**	1.00

表8-2 教職科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	N	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-7
A-1	315	1.00						
A-2	315	.688**	1.00					
B-3	315	.524**	.497**	1.00				
B-4	316	.456**	.417**	.662**	1.00			
B-5	316	.605**	.565**	.718**	.606**	1.00		
B-6	314	.581**	.518**	.752**	.737**	.716**	1.00	
C-7	302	.582**	.518**	.763**	.720**	.770**	.789**	1.00

### 3. 総 評

県立広島大学における平成 26 年度前期・後期開講科目を対象にした学生による授業評価結果から、本学における授業の実態を総括的に把握することができた。また、様々な改善を要する課題がいくつか明らかになった。以下に、それらを、若干の考察を加えて列挙する。

- ① 受講生のまじめで良好な授業態度が明らかにされた。このことは、本調査の回収率の高さからもうかがえた。
- ② 本調査からは、全体的におおむね良好な評価結果が得られたと言える。平成 25 年度調査に引き続き、平成 26 年度も、全科目群ともすべての設問項目において 80%以上の肯定的評価を得ることができた。90%以上の肯定的評価項目も多数確認された。
- ③ 自由記述からも本学教員は、授業に熱意をもって臨んでいると評価されている。具体的には、標準的授業時間数が確保され、講義で使用する教科書やプリントなどの補助教材、あるいは、実験の準備等、教員の授業に対する積極的な姿勢が評価されたと考えられる。
- ④ 「この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。」の評価が高いということは、コースカタログやシラバスの内容に則った適切な授業が実施されたものとみなされるであろう。もっとも本来授業は刺激と反応との相互作用によって創り上げられるものであるから、具体的目標の設定、軌道修正されたシラバス(改訂版)の再配付等、教員にはきめ細かな対応が求められる。
- ⑤ 提出したレポートや課題のフィードバックが十分になされていない授業科目がわずかながらある。厳格な成績評価を全学的な目標として掲げている以上、提出物に対する判定基準や個別の評価結果の伝達等は必要条件であろう。フィードバックは、授業における双方向性の確保の観点からも、必要不可欠である。
- ⑥ 授業によっては、学生の理解度を超えるような内容のものもある。教育と研究の統合や、高い目標設定は教員のねらいとするところであるが、ここでも授業の内容や構成に無理がないか、学生の到達度と教員の期待値に齟齬が生じていないか、冷静に判断していかなければならない。そのヒントは、授業公開並びに他の教員のシラバスや授業参観などから得ることもできよう。新任・昇任教員による授業公開を実践の好機と捉え、平成 27 年度はさらに全学的ピア・レビュー授業公開の促進に努めていきたい。
- ⑦ すべての学生が授業から知的刺激を受け、学修意欲がさらに増進しているという状況には未だ至っていない。最も困難な課題であり、たった一つの評価項目から判断できるものではないが、学修意欲の喚起や動機づけは授業方法論と深く関わりをもっているため、これも教員相互の授業公開や参観により、良い刺激を受けて改善してゆく可能性はある。アクティブラーニングの導入など、授業形態の見直しも必要であろう。

- ⑧ 授業に対する満足度は絶対的水準でみれば高いと言える。学科の特性を尊重しつつ、評価を下げないための不断の努力（授業改善）を怠るわけにはいかない。一方で、学生からの満足度が受講時には得られなくても、高学年次や卒業後になって大変有益であったと思ひ起こす授業は大学には数多く存在する。卒業後、本来の意味を学生がようやく認識できたという事例は少なからずある。こうした授業を正当に評価する視点も失ってはならない。

近年、大学は、法人評価や認証評価など、大学全体として外部評価を避けては通れない状況にある。そのために授業評価を実施しなければならないという理屈も成り立つ。その意味で、「学生による授業評価」の実施は、業績測定とそれに基づく管理という目的に適いやすい。実際、大学組織改革の要である教員人事評価の問題点について、解決の方向性を検討した研究もみられる<sup>2</sup>。また、業績の測定・管理と教育改善は必ずしも互いを排する関係にあるわけではないとする議論もある<sup>3</sup>。

前述したように授業評価は、単に外部評価を受けるための資料としてではなく、授業改善の具体的な動きと即応させることこそ第一義である。そのためには、学期末ごとに集中的に実施されることによる学生の負担を考え、詳細な情報を得るために多様な項目を数多く設定することが果たして適切かどうかを考慮する必要がある。すなわち、授業改善に結びつく必要な情報をいかに的確で簡潔な内容（調査項目）で収集するかを検討していかなければならない。また、こうした調査を授業終了後に実施したのでは、当該授業の改善にすぐに結びつけることができない。できれば学期の中間で実施したいという意見については、中間アンケート実施促進週間を前期授業期間中に設け、用紙を準備し利用に供している。諸般の事情により集計結果を担当教員に委ねているため、定着にはしばらく時間を要するかもしれない。

ところで授業の改善は学生との協同作業でもある。学生による授業評価の記入内容の信頼性を高めるためには、教員に学生を特定できないような措置を取りながらも、一方で記名式の調査用紙を採用して学生に記載者責任の自覚や増進を促す工夫も考慮されるべきであろう。あるいは、各授業科目における達成度をコースカタログやシラバスに記載し、その結果を問うことで学生の自己評価としての機能を高めることも考えられる。

総合教育センターは、学生の主体的参加を促す方策を模索しながら、授業改善に資する情報を得るための調査を引き続き実施してゆきたいと考えている。

---

<sup>2</sup> 佐々木恒夫・齊藤毅憲・渡辺峻編著 2006, 「大学教員の人事評価システム」中央経済社。

<sup>3</sup> 天野智水 2006, 「学生による授業評価を概観する」有本 章・北垣郁雄編著『大学力』ミネルヴァ書房, 282-287 頁。

表9-1 全学共通教育科目における項目別の評価値（前期）

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●あなた自身についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。	7,007	1	4	3.25	0.61
2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行った。	6,958	1	4	2.77	0.86
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	6,994	1	4	3.19	0.62
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板、視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	6,979	1	4	3.22	0.62
5 この授業の内容に関してさらに学びたい。	6,998	1	4	3.05	0.72
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	6,891	1	4	3.13	0.67
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	6,609	1	4	3.23	0.66

注）表中の平均値は、回答した選択肢、例えば「強く思う」を4点、「そう思う」を3点、「そう思わない」を2点、「まったく思わない」を1点として算出した。数値が大きいほど肯定的に評価されている。以下の表も同様。

表9-2 全学共通教育科目における項目別の評価値（後期）

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●あなた自身についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。	4,672	1	4	3.27	0.55
2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行った。	4,653	1	4	2.93	0.76
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	4,672	1	4	3.25	0.57
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板、視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	4,670	1	4	3.29	0.58
5 この授業の内容に関してさらに学びたい。	4,668	1	4	3.15	0.66
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	4,636	1	4	3.22	0.59
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	4,387	1	4	3.28	0.60

表10-1 専門科目における項目別の評価値（前期）

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●あなた自身についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。	13,502	1	4	3.25	0.56
2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行った。	13,465	1	4	2.95	0.74
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	13,496	1	4	3.25	0.59
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板, 視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	13,478	1	4	3.24	0.61
5 この授業の内容に関してさらに学びたい。	13,493	1	4	3.20	0.66
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	13,291	1	4	3.20	0.62
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	12,956	1	4	3.28	0.62

表10-2 専門科目における項目別の評価値（後期）

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●あなた自身についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。	13,469	1	4	3.31	0.55
2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行った。	13,455	1	4	3.02	0.72
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	13,456	1	4	3.32	0.57
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板, 視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	13,442	1	4	3.30	0.59
5 この授業の内容に関してさらに学びたい。	13,454	1	4	3.27	0.62
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	13,369	1	4	3.27	0.59
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	12,798	1	4	3.33	0.59

表11-1 教職科目における項目別の評価値（前期）

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●あなた自身についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。	203	1	4	3.26	0.61
2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行った。	201	1	4	2.91	0.84
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	202	2	4	3.32	0.61
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板, 視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	203	1	4	3.35	0.61
5 この授業の内容に関してさらに学びたい。	203	2	4	3.25	0.70
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	201	1	4	3.26	0.68
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	199	1	4	3.34	0.70

表11-2 教職科目における項目別の評価値（後期）

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●あなた自身についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
1 わたしはこの授業に真摯に取り組んだ。	315	1	4	3.25	0.63
2 わたしはこの授業に関連する自主的な学修を行った。	315	1	4	2.94	0.78
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
3 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	315	1	4	3.27	0.63
4 この授業の教材（教科書・プリントなど）・教具（黒板, 視聴覚・情報機器など）は適切だ。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	316	1	4	3.26	0.63
5 この授業の内容に関してさらに学びたい。	316	1	4	3.21	0.67
6 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得た。（判断の理由を自由記述欄に具体的に記入して下さい。）	314	1	4	3.25	0.62
7 総合的に判断して、この授業に満足している。	302	1	4	3.27	0.66

## おわりに

『平成 26 年度「学生による授業評価」報告書』をお届けします。この報告書には平成 26 年度の前期・後期に実施された「授業改善のためのアンケート」調査結果の全体集計、総評、アンケート結果を受けて作成された各授業担当者のコメント、学部および全学共通教育科目の分野別総括（教職科目を含む）が掲載されています。

各科目における教員コメントは、平成 25 年度より「昨年度の結果を踏まえた授業改善点」「履修者の反応を知るために学期中に実施した方法・その結果を踏まえた授業改善点」「期末アンケート結果から見た今後の課題」の 3 項目に分けて記述しています。利用促進週間を設定した中間アンケートをはじめ、学生の実態を把握しようとする試みの状況や、授業が進行している最中に行われた改善の様子を一層浮き彫りにしたいとの思いからです。

中でも「履修者の反応を知るために学期中に実施した方法」の欄には、中間アンケート以外にも、「コメントシート」「ミニッツペーパー」「リアクションペーパー」などの回収と次回授業での回答など、授業改善に結びつく情報収集とそのフィードバック方法の具体的な有効性の高いと判断される多くのヒントが記載されています。本冊子に綴られた学生の声に耳を傾け、授業担当者としての思いを共有しながら、授業改善アンケートのさらなる活用法をも求めて、この報告書の一層の活用をお願いする次第です。

同時に、学部学科別のまとめにおいては、複数年を振り返る経年変化の視点から、注目する内容や項目を提起する記述が増えています。平成 17 年後期の「学生による授業評価」の導入から 9 年を経て、CAP 制度の導入や能動的自主学修の強調など、授業運営に関わる変革の進行に伴い、より一層の創意工夫と成果の可視化が問われています。その意味からも、この報告書が次なる指針を示していることを願って止みません。

しかし一方で、残念ながらアンケートの回収率が思わしくない授業やコメントを寄せない担当者があることも確かです。例えば、回収率が 3 分の 2 程度だとすると、アンケート実施の最終週には 3 分の 1 の履修者が出席していないという状況が予測されることになるでしょう。コメントを寄せないとすると、学生の実態が把握し難いばかりか、授業運営の状況も見返すことができません。現在は、アンケート結果とコメントをまとめて教員が相互に授業を見直す糧とし、学生の実態を伝える内容が主の報告書ですが、各科目の位置付けや GPC など授業成果との関連などへの目配りも必要になると考えられるからです。また昨年度の報告書にあったように、学生にもこの結果を広く知ってもらい、相互協力によって授業運営の効率と満足度が一層高まることに繋がれば幸いです。

本事業にかかわってくださった全ての方に心よりお礼申し上げ、引き続きご意見をお寄せくださることを願って、結びといたします。

平成 27 年 7 月

総合教育センター副センター長 丸山 浩 明

## 「学生による授業評価」報告書（平成 26 年度実施）

---

2015（平成 27）年 7 月 発行

編 集・発 行：県立広島大学総合教育センター

お問い合わせ：県立広島大学総合教育センター

住 所：〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71

電 話：082-251-9710（内線 1188）

F A X：082-251-9181

E - m a i l：sougou@pu-hiroshima.ac.jp

U R L：http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/general-education/

---